

越生・鳩山新校基本計画検討委員会（第2回） 議事録

- 1 日 時 令和5年10月27日（金） 午後3時20分開会
午後4時50分終了
- 2 会 場 県立越生高等学校白梅館
- 3 出席委員 栗藤委員長、榎本副委員長、黒須副委員長、小林委員、東委員、
丹治委員、早川委員、白井委員、八木原委員、加藤委員、佐藤委員、
齋藤委員、高井委員、落合（範）委員、荻野委員、桑原委員、原口委員、
大沼委員、四阿委員
- 4 事務局 魅力ある高校づくり課 中島、坂本、高辻、橋本

5 協議等 「越生・鳩山新校基本計画骨子（案）」について

栗藤委員長 それでは、次第2の協議に入りたいと思います。前回の委員会では、両校において作成いただいた新校基本計画検討案に対して、それぞれの教頭先生から御説明をいただいた後、様々な御意見を伺ったところです。第1回の新校基本計画検討委員会の議事録は、参考資料3になります。また、その後に開催された新校準備委員会では、両校から出された検討案を見ていただいて、御意見を頂戴したわけですが、その議事録は、参考資料4となります。適宜御参照ください。先ほど説明があったように、今回は、事務局にて両校で検討した案を踏まえて作成した骨子案を資料1としてまとめています。それでは、この資料1、越生・鳩山新校基本計画骨子（案）の説明を事務局からお願いしたいと思います。

事務局 （越生・鳩山新校基本計画骨子（案）のうち課程・学科等、学校規模について説明）

栗藤委員長 ただ今説明がございましたけれども、まずは資料1の最初のページの上の部分に書かれている、学科名や学級規模等について提案がありました。御意見、御質問等がございましたら、お願いいたします。

白井委員 本日はよろしく申し上げます。越生高校美術科主任の白井と申します。今、学科名について、普通科と美術・デザイン科という原案の説明がありましたが、現在の美術科ではなく、デザインという言葉が入って、美術・デザイン科となった経緯をお聞かせください。

栗藤委員長 はい。この案が出てきた辺りの説明をということですので、事務局からお願いします。

事務局 はい。まず、第2期実施方策の方では、アニメーション・美術に関する学科及び普通科を設置するとしておりまして、越生高校の美術科にアニメーションに関

する学びを加えることを想定しておりました。そこで、美術科の学びに加え、アニメーションに関する学びを包含する学科の名称を案といたしました。また、新校準備委員会の方で、委員から、「アートとデザインといった表現を用いるのが良いのではないか」という御意見もあったことから、原案を美術・デザイン科とさせていただきます。あくまで案でございますので、いろいろな御意見をいただければと思います。

栗藤委員長 考え方としてはこういうことなのですが、それを受けましていかがでしょうか。はい。お願いします。

白井委員 すいません、よく分かっていないところがあるのですが、今回の原案でもしこのまま反対等が出なければ、今回で決まりという形になるのでしょうか。

栗藤委員長 事務局からいかがですか。

事務局 新校基本計画検討委員会は3回を予定しております、今回は第2回で、次回が第3回になります。またこの後も、第2回の新校準備委員会を経て、御意見をいただきながら、第3回のところでは固めたいと思っておりますので、もう一度また考える機会があります。今回はいろいろな意見をいただきながら、また、新校準備委員会でも同じような形で御意見をいただき、最終の第3回で固めたいと思っております。今回、全く意見が出なければ、このままいくことになるのかと思っておりますが、今回たくさん意見をいただければ、それを踏まえて事務局で検討していきたいと思っております。別案がもしよろしければ、今日出していただけると助かる場所ではございます。

栗藤委員長 白井委員、いかがでしょうか。

白井委員 ありがとうございます。資料は事前にいただいていたはいましたが、今この場で、美術・デザイン科という名称を目にしまして、アートとデザインという言葉を入れてという御意見が反映されているんだと思いますが、この学科名について、賛成できるのか反対できるのか、今はまだ、美術の教員の案も聞きたいなと思っておりますので、反対も賛成も出せないという状況です。よろしくお願いします。

栗藤委員長 ありがとうございます。美術科を代表されてこちらに来ていただいていると思いますが、もちろん、今この場で判断するのは難しいというのは、とても良く分かる話です。事務局からも話がありましたように、この後、準備委員会の方でも、ほぼ同じ資料を使って、こういった形でどうでしょうと意見を聞くことになっています。最初に事務局から説明があったように、こちらが原案を作成するような性格を持ってまして、それに対して意見を求める場が、地域の皆さんをメンバーとする準備委員会になります。準備委員会の方からもいろいろアドバイスであったり御意見等をいただいたときに、地域の声なので、できる限り地域の声というのは反映したいと考えているというのが、私たちのスタンスですので、ここである程度固めても、準備委員会の方からいろいろあります。それによってまた案を修正する可能性はあります。ですので、最終的にこの案が固まっていくのはもう少し先だと思いますので、今日は本当に、たたき台と考えていただければと思います。事務局も自信を持って出している案ではないということで、いろいろな考え方、先生方か

らアイデアがあれば、事務局の参考にさせていただきたいと考えております。事務局から何かありますか。

事務局 この後、11月20日に新校準備委員会を行います。そこで両校の校長先生も参加されますので、そこまでにある程度、美術科で案を固めて校長先生にお伝えいただくのも一つかなと思います。例えば、吉澤校長先生から、こういう案もどうだという話をいただくと、第3回に生かせるのかなと思います。

白井委員 意見ということでしょうか。

栗藤委員長 はい。お願いします。

白井委員 この夏休みにもいろいろ打合せ等させていただいて、今回決まってくる学校全体の計画の中に出てくるアニメーションという言葉ですとか、こちらに関していろいろな意見がありまして、今、原案として美術・デザイン科という言葉が出てきましたが、またこちらでも、専門学科の中に、大きく学科の顔となってくる名前のところにデザインという言葉が入ってくるということも大きな影響が出てくるかと思えます。美術科ではいけないのかなというふうに感じたというのが、私の意見です。

栗藤委員長 ということですので、他の委員からも、例えばこんな案があるですとか、あるいはこういった方向性は出せないのかといったような御意見がいただければ、それらを踏まえ、事務局が検討するという事は先ほどからも申し上げておりますが、もちろん、越生高校の美術科の意見も踏まえて検討していきたいと思っております。教頭先生を通じて常にコミュニケーションを取らせていただいておりますので、他の委員からも、この辺りについてヒントとなるものがあれば、この場を出していただいて、今後の検討の参考にさせていただきたいと思えます。他にございますか。榎本教頭先生、お願いします。

榎本副委員長 越生高校教頭の榎本です。白井委員から発言がありましたが、美術科という名前で良いのではないかという意見の裏としては、本校は美術科のときも、アニメーションに係るところを教育課程上扱っていたということがあり、今回、アニメーションというところを新校に入れていくということにおいて、県が説明していた内容と同じことを既にやっていたので、内容として同じことをやるなら、美術科という名前で良いのではないかというところも、発言の中にはあるのではないかと思います。美術科という名前の越生高校時代にもこんなことをやっていたというのを、少し委員の皆様にご紹介させていただきたいと思うのですが、いかがでしょうか。御検討をお願いします。

栗藤委員長 90分という限られた時間の中で進めていこうと思っておりますが、手短かに御紹介いただけますか。よろしくをお願いします。

白井委員 限られた時間の中で申し訳ございません。2年前に、2年生が本校の映像表現という授業で作っていた、越生高校タイトルバックという課題名で、学校の紹介をするという作品があります。このような作品を作っておりましたので、恐らく、越生高校に今回、アニメーションという言葉が出てきたのかと思っております。実は昨年度から授業の中では取り扱うことをやめてしまったのですが、経緯としては、

本校で3年間学んでいた映像表現という科目において余りにも扱う内容が多岐に渡っておりましたので、もう少し本校の生徒に合わせ、少し見直しを図りました。本校の生徒は結構イラストが好きだったり、それを生かして印刷物やポスターなどを作るような生徒が多かったりします。そちらの方も、卒業後にも生かせる内容になりますので、そちらに絞って生徒の作品を指導するというということにしました。そのため、アニメーションは余り扱っていないという形になっています。ただ、昔はアニメーションというのを学ばせておりました。なので、映像表現で扱うアニメーションに関しても、美術の中の一環として学ばせていこうというのが昔からありまして、この部屋にも本校の生徒の作品を並べておりますが、本校は美術の基礎となるものであったりとか、義務教育後の最後の学びの場として、絵画や彫刻だったり、基礎的なデザインというものを幅広く学ばせているというその中で、こういった映像表現も、美術の中の一環として学ばせていたということがありました。確かに、中学生のときに美術が好きで、本校に魅力を感じて本校でイラスト、アニメをやってみたいという子も多かったですが、こちらとしてはあくまで広い意味で、その中で一環として学ばせていたという経緯があります。長くなってしまい申し訳ございませんが、よろしくお願ひします。

栗藤委員長 ありがとうございます。今回の第2期実施方策で出された、越生高校と鳩山高校の統合という話は、学校を再編していく中で活性化と特色化を図っていくというのが大前提にあります。ですので、魅力ある新しい学校を、いろいろな付加価値を付けていくということが大事だと思っておりますので、様々なこの学校の強み、また、鳩山高校のレガシー、こういったものをうまく生かしながら良いものを作っていきたいという中で生まれてきている基本計画の骨子案であると御理解いただいて、その観点から御発言をいただければと思います。今、美術科のこれまでの取組と言いますか、流れみたいなもののお話もありましたが、それを共通理解した上で、御発言いただければ有り難いと思います。いかがでしょうか。

榎本副委員長 貴重な御時間をいただきましてありがとうございます。白井委員から説明があったことも踏まえて、ただ、栗藤委員長からもありましたが、美術科というくくりの名前だと、今、実際にアニメというものをやっていたということが、県民の皆様が届いていないのではないかと思います。ここにいる委員の皆様、いかがでしょうか。美術科という名前だけで、映像表現、アニメに係る授業をやっていたということを御理解されていた方がどのくらいいらっしゃるのかなというのが、私の疑問でもあります。ということで、美術に「・デザイン」と付くことで、美術の他に何かあるのかなということで、内容的な言葉尻の方はどうか分かりませんが、私の意見としては、デザインを付けても良いかなと思ひました。

栗藤委員長 ありがとうございます。本当に、率直に聞いた感じ、あるいは中学生がどう受け止めるであろうかという辺りで御意見がいただけると、この先の検討のヒントになるかと思ひます。はい。四阿委員、お願ひします。

四阿委員 生徒指導課の四阿でございます。生徒指導課としてではなく、かつて芸術総合高校の映像芸術科の学科主任をやっていたものですから、その経験から、まず

一点は質問なのですが、隣に美術科があったので、美術という教科の中に、油絵、日本画、デザイン、彫刻とあるようなイメージを私は持っていたのですが、それが学科名になったときに、美術とデザインが「・」で並ぶことに少し違和感を覚えるのですが、その辺の私の感覚は外れているのでしょうか。それとも、美術の先生はそう思われるのかということをお伺いしたいというのが一点です。それから、学科名は生徒募集に直結すると思います。そうなったときに、「美術・デザイン」で、アニメーションを少し膨らませた、メディア表現を少し膨らませた美術科なんですよというイメージが伝わるのかということが、懸念しているところです。かといって何が良いかと言われたときには、なかなか、こういったアイデアはいかがでしょうかというのは持っていないところなんですけれども。以上です。

栗藤委員長 美術とデザインという言葉の親和性と言いますか、組合せというところはどうかという意見でしたけれども、美術科の立場から何かございますか。

白井委員 四阿委員がおっしゃっていた感覚に自分も近いと思います。美術の中に、絵画とか油絵とか、そういうイメージを持っております。また、これは補足なんですけれども、アニメーションを包含するということでデザインという言葉が出てきたのですが、アニメーションとデザインは全く別のものになってくるので、その辺りも踏まえていただければと思います。

栗藤委員長 いろいろと意見が出てきたところですが、事務局の説明にもあったように、アートとかデザインという言葉を使ったら良いのではないだろうかという御意見を出していただいているのは、アニメ制作会社のプロデューサーであり、駿河台大学で教鞭を取られている伊東耕平教授という方から御意見をいただいております。準備委員からの意見でもあったので、まずはそういった案を皆さんにお示ししておりますが、事務局としても、明確に、だからこうなんだというものがなかなか出しにくいところもあります。いろいろな考え方もありますし、イメージとか語感とかそういったこともありますので、この辺りは本当にいろいろなアイデアを集めていければと思います。時間が限られている中で、学科の名称について深く入ってしまいました。また後ほど時間を取るということもできたらやりたいと思いますので、このパートではもう一つ、学校の規模感についても提案があります。160人、4学級。その内訳は、普通科が3でアニメーション・美術に関する学科が1という組合せになっています。こちらに関して、御意見や御質問はありますでしょうか。はい。加藤委員、お願いします。

加藤委員 鳩山高校の加藤です。学校の規模と学科名について併せてお聞きしたいのですが、美術・デザイン科とありますが、私は美術の全くの専門外ですが、この中で専攻があるのかなという印象を持ちます。美術コース、デザインコースといったようにですね。原案のクラス数ですと、普通科が3クラスで美術・デザイン科が1クラスとなっていて、普通科3クラスに対して1クラスの中で更に専攻があるというのは、バランスがよろしくないのではないかと思います。もし仮に、美術・デザイン科のように何か二つのワードで学科名を表すのであれば、こちらの学科も2

クラスあってしかるべきではないのかと思います。普通科2クラスと美術・デザイン科で2クラス。あとは、今までアニメーションという言葉が随分出てきていたと思いますが、デザインというワードは特に出ていなかったと思います。急に出てくると中学生は、デザインと言われてもそこは結び付かないと思うのですが。

栗藤委員長 クラスの考え方、規模感の考え方、あるいは、「・」を付けたことによって専攻ということになるのかということでしたが、こちらについて事務局から何かありますか。

事務局 御意見、御質問ありがとうございます。まず、美術・デザイン科ということで二つのコースがあるように見受けられるということかと思いますが、これまでも越生高校の美術科では、1クラスの中でいろいろと細かい専攻に分かれていたということもあります。今回、美術・デザイン科としましたが、新しい学校でもコースと言いますかそのような専攻に分かれていくとは思いますが。また、2クラスというのも検討しましたが、既存の施設を有効利用するということを考えると、恐らく2クラスは難しいというのは越生高校からも聞いておりましたので、原案は、美術・デザイン科を1クラスとしております。御理解いただければと思います。もう一点、確かに、実施方策ではアニメーションとうたっておりまして、今回はアニメーションではなくデザインにしたというところは、アニメーションとうたってしまうと、アニメーションだけをやる学科なのかと誤解を招くということも考えまして、デザインという言葉がアニメーションも包含できるということで、学科名としては、美術・デザイン科としました。中身の細かい説明の中で、アニメーションも学んでいきますというPRをしていけると考えております。そういったところで、アニメーションもいろいろ含んだデザインとしたところでございます。

栗藤委員長 現状の越生高校の美術科では、2年生に入ると、主専攻と副専攻を選び、そして3年生になると、主専攻一つを四つの領域から選ぶこととなります。その中には、絵画、彫刻、クラフトデザイン、ビジュアルデザインの四つがありますので、デザインという言葉は現在の四つの主専攻の中にも入っているというのが実際のところですが、それからこれも蛇足になりますが、令和2年度までの越生高校は、普通科3クラス、美術科1クラスという形で来ております。その普通科を2クラスに減じて現在に至っているわけですが、イメージとしては、令和2年度以前に形を再度戻すということですが、それから、教育課程等は来年度検討していきませんが、アートというと全部を包含するのでしょうか、デザインという名前の付いた専攻科目もあったので、そういった意味合いもここに出ていると考えたところではあります。現在の越生高校の学びを、名称やクラス規模にかなり反映させているところですが、他にいかがでしょうか。八木原委員、お願いします。

八木原委員 今年度、越生高校で生徒募集委員長を務めております八木原です。学校規模のところですが、普通科は40人3学級ということですが、越生高校と鳩山高校の現状の入学者数であったりとか、近隣の鶴ヶ島清風高校が40人増というところとかも踏まえても、これだけ集まるのかというのが少し疑問としてあります。現在、倍率も0.5倍、0.6倍くらいのところで、普通科120人というのは、厳しいの

かなと感じました。

栗藤委員長 現状と比較すると確かに1クラス増ですので、御心配はあるかと思いません。事務局としてはどう考えていますか。

事務局 現在、越生高校の普通科が2クラス、鳩山高校の普通科が3クラスの5クラスあるということで、今回、統合ということもございますので、それも含めて3クラスとしているところでございます。事務局でも細かい計算をさせていただいた上で、正直なところ、2クラスでは収まり切らないのではないかと、3クラスあれば、比較的収まると言えますか、今後、この地域で永く続いていく学校になると思いますので、3クラスでしっかり包み込めるのかなということを考えております。また、やはり生徒募集も難しいということもございますので、普通科の特色化と言いますか、地域との連携も含めて、特色化についても両校と相談しながら考えて、生徒募集も御協力いただき、頑張っていければと思います。よって、原案としては、普通科3クラスとさせていただきます。

栗藤委員長 事務局のデータ上、2クラスでは収まり切らない程度には、この地域の中学生が志願するであろうという計算をしています。確かに、生徒を獲得するためには、頑張らないといけない数字だと思っています。ただ、高校というのは、中学校と違って学区があるわけではないので、鉄道等を使って、あるいは自転車等を使って、より広域なところから生徒が集まってくるという部分もありますので、生徒募集については県全体、広域で考えているところです。その辺り、御理解いただければと思います。丹治委員、お願いします。

丹治委員 越生高校の丹治です。私も八木原委員と同じで、120人はちょっときつのかなというのが正直なところで、今事務局から、3クラスあれば収まりきるという話がありましたが、収まれば良いという感じでもないのかなと思います。少し乱暴な言い方になってしまうかもしれませんが、今越生高校は倍率も出ていなくて定員割れをしているので、受検した生徒は基本的に入学してきます。やはり入学した後に、様々な課題を抱えてしまう生徒もいます。倍率が出ればそれがどうにかなるといってもないとは思いますが、何でもかんでも、3クラスあるから入れるよというのは、それはそれで少し危うい考えなのかなというのがあります。あと、計算上は3クラス分くらいという話ですが、単純にこの前の入試の人数で確認したのですが、越生高校が44名、鳩山高校が62名、合計106名の志願者となっています。そうすると3クラス分には足りていないということもありますし、また別の視点、部活動の視点で言うと、鳩山高校は高体連だと北部地区に入ったりするので、高校に入って部活やってみたいなという生徒に関しては、新校だと西部地区になるしな、ということももしかしたらあるかなということを見ると、必ずしも3クラス分というのはちょっと難しいのではないかとというのが私の意見です。

栗藤委員長 ありがとうございます。他にありますか。黒須教頭先生、お願いします。

黒須副委員長 鳩山高校の黒須です。クラス規模について、話したいと思います。2クラス、3クラスあると思いますが、どちらにしても、やりたい教育が、3クラスにすると、場所とか教科の展開とかが出てくると思います。もともと越生高校は、

丁寧な教育を少人数でやっているのが特徴だと記憶しております。そういうものが維持できるスペースが、果たして現状の、既存の施設を維持する中で可能なのかどうなのかということです。美術の方、新しい学科に他の教室が必要となれば、中で回すしかなくなることもあると思います。そういうふうに、他の授業と展開している選択系のものや少人数が果たして本当に、3クラス規模の募集をかけてしまって実現可能なのか、あるいは実現できないとなった場合に、そういうところの手当が必ず保障されるのかといった点について、お聞きします。

栗藤委員長 はい。施設面の御心配ということですが、いかがでしょうか。

事務局 越生高校は令和2年度まで、普通科3クラス、美術科1クラスで運営していたという実績もございますので、いろいろと工夫が必要になるかと思いますが、事務局としては可能と考えております。

栗藤委員長 もちろん、物理的に本当に施設が足りないということになってしまえばそれは無理なんですけれども、大前提としてお考えいただきたいのは、鳩山高校と越生高校の統合であるということです。2つの学校を統合するのに、そのサイズ感が余りにも小さいのではないかというのが一つあるわけです。少なくとも、鳩山高校よりも小さくなるというのは、果たしてどうなのか。これまで平成の年代にいきいきハイスクールがありました。統合した際に、開いた学校が統合前のそれぞれの学校の規模感を下回ることはありませんでした。同じ規模で開くことはありましたが。ですので、小さくするという事は、いろいろな観点から現実的かもしれませんが、鳩山高校を閉じるという中では、なかなか地域の皆さんのお気持ちとしてどうなのかというのを事務局としては考えているところです。ですので、計算上は、普通科は2クラスとちょっとくらいしか数値が出てこないですけれども、でも、令和2年度以前の状態に戻すと、その実績がある限りは、授業展開なんかも工夫してやれるのではないかと考えています。少なくともそういう形で生徒募集をやって、鳩山の皆さんに、学校を閉じてはこちらの学校があるんだというメッセージが出せると良いのかなと私たちは考えています。物理的に今教室がどういう状況かというのは、詳細を把握していないまま言っていますので、いろいろなところの問題があるのかもしれませんが、ただ、かつてやっていたというところを踏まえると、工夫してうまくやっていけないかと思っています。加藤委員、お願いします。

加藤委員 純粋な疑問なんですけれども、いわゆる人気のある学校、それこそ1.2倍、1.3倍あるような学校は、クラス数をポンと増やしたりしています。今年度の鳩山高校と越生高校の普通科を合わせても3クラスで足りないということであれば、2クラススタートで、需要があるのであれば3クラスにその後していくということもあるかと思うのですが、どうなんでしょうか。始めから開いたけれどもお客が来ませんでしたとかなりきついと思います。

栗藤委員長 事務局、いかがですか。

事務局 意見として受け止めます。

栗藤委員長 この話は本当に、事務局内で相当時間をかけて検討してきましたが、私

は先ほど言いましたように、鳩山町の地域の皆さんの気持ちを考えたときに、少しでも可能性があるならば、3クラスと1クラスの計4クラスで開くという方向が良いと考えているところです。授業の展開上、支障が大いにあるということであれば、考えなければいけないところもあるかもしれませんが、今その方向で、県としては考えているということです。人が集まらないのは、設置者である県の責任になりますので、先生方の責任ではないと考えます。他、何かございますか。

榎本副委員長 なかなか難しいところですが、現実のところの教育活動で言うと、一昨年度から普通科は80人募集ということになり1学年80人で来ているわけですが、それまでは管理棟のエアコンの付いていない教室で、一つの教室を二つに割ったような教室で扇風機を付けて授業をしていました。今年度と昨年度は、その教室を使わないでエアコンの付いている部屋で授業ができるようになったので、これは良かったのかなというところを感じています。これをまた3クラスに戻したときには、またその講義室A、Bを使うのだろうか、そうするとエアコンが付いていないのでどうしようかということもありつつ、新校ということなので、そういったところまで予算措置ができるのかとか、その辺りをいろいろ考え、なかなか2クラス、3クラスというのは悩ましいところかと考えております。悩みです。

栗藤委員長 確かにいろいろな心配、懸念があるのだと思います。空調の問題も、ものすごい猛暑が続いている昨今を考えますと、なかなか難しいとは思いますが、まずは大きな枠組みとして、どの規模で学校を開くかということにフォーカスして、例えば、施設関係で空調の話が出てきましたが、空調をどうするかという話を今ここでも、予算を獲得していくという段階では明確な答えは出ません。ですので、まずは大きく平たく、どのサイズでこの地域の皆さんに新しい学校として開いていくのかという観点で御意見をいただければと思います。

榎本副委員長 先ほどは悩みを述べさせていただきましたが、事務長といろいろ計算する中で、来年度から空調費もPTA負担も、そこについては値上げをせざるを得ないということも現実には起きています。生徒数が4クラス規模ということになると、PTA・後援会費も少ないですので、想像以上に、皆さんが考える以上に学校独自の財布というのは小さいですので、空調費も実際払い続けられるのかというところもあります。ただ、こういった話ばかりしていると、夢が無くなってしまいますので、先ほどもありましたが、20年、30年続く学校ということで、事務局の方も一生懸命いろいろな計算をされた上で3クラスでいこうかという御提案をいただいているので、夢を見ながら、3クラスでも良いのかなという考えもあります。なかなか2クラス、3クラスというのは難しい選択になると思いますが、そういった意味で、委員長がおっしゃった観点で言えば、私は3クラスで良いのかなと、もう少し増えても良いのかなというところがあります。小川、越生、飯能の3校が八高線の主なる県立高校だということで、中長期的な視点で見ても良いのかなというところも、発言として残しておきたいと思います。

栗藤委員長 そうしましたら、他にもまだ御意見を頂戴しなければならないことがたくさんあります。ひとまず、学科名と学級規模については、後ろに回せるかどうか

分かりませんが、また準備委員会の方でも、まさに地域に皆さんの声を聞くという機会ですので、ここでどういった議論があったかということもある程度お話をしておく必要があります。現場としては大きいサイズにしてしまうと心配だ、小さい方が良いのではないかという意見が出たことも説明しつつ、地域の皆さんの声がそこには入ってくると思いますので、そういったことも踏まえながら、事務局の方でまた検討を進めていきたいと思います。ここで一旦、区切らせていただきたいと思います。では次のパートについて、事務局から説明をお願いします。

事務局 （越生・鳩山新校基本計画骨子（案）のうち基本理念（目指す学校、育てたい生徒像）について説明）

栗藤委員長 それでは、1ページの後半部分についての説明がありました。ただ、これまでの議論を踏まえるという意味では、参考資料1を見ていただいた方が良いかもしれません。参考資料1の基本理念、目指す学校、育てたい生徒像の項目で、越生高校の案、鳩山高校の案、事務局が示した論点を踏まえ、一番右側にある骨子（案）にまとまっているということで見えやすくなっているかと思います。文言として検討すべきは、一番右側の骨子（案）になりますので、こちらを御覧いただきながら、まずは目指す学校、育てたい生徒像について、御意見、御質問がありましたらお願いします。いかがでしょうか。事務局も言っていましたが、ここが全ての部分に通ずる大きな柱、筋柱と言いますか一番大事なところになりますので、しっかりと見ていただければと思います。少し時間を取ります。お読みいただき、何かあればお願いします。

佐藤委員 質問してもよろしいでしょうか。

栗藤委員長 はい。お願いします。

佐藤委員 鳩山高校の進路指導主事の佐藤です。どんな学校をイメージされているのかを事務局にお聞きしたいと思います。というのも、前回私は欠席してしまったものですから。例えば、私は体育科のある大井高校から始まりました。大井高校は体育科の方で力を入れておりまして、全国大会等の実績を残し、最終的には埼玉大学に合格するということもありました。松山高校では理数科がありましたが、東工大に入るような生徒も、しばしばおりました。鳩山高校では情報管理科があって、情報管理科の方の就職ですと、例えば武蔵野銀行に入れていただくなど、そういう売りというか、大きな、こういったものを掲げて指導していますよと胸を張って私もやってきましたが、新しい学校は、そういった目印になるようなものにはどういったものがあるのでしょうか。教えてください。

栗藤委員長 改めてこの新校の性格はどういうものかという御質問ですが、事務局からいかがでしょうか。

事務局 基本となるのは、参考資料5の魅力ある県立高校づくり第2期実施方策で書かれていることが、県教育委員会で打ち出している方向性ということでございます。そちらを見ていただくと、基本方針としては、クリエイティブな分野で活躍できる人材の育成を目指すといったところを大きくうたっており、詳細の内容については、今回御検討いただいている骨子（案）の部分になりますので、現在は両校の

案を反映させているところですが、皆さんの御意見を踏まえて、売りになるところですかそういったところも含めて、この委員会も含めて決定していければと思っております。委員長からももしあればお願いできればと思います。

栗藤委員長 基本的には二つの学校の統合ではありますが、私どもが考えているのは、現在の越生高校の美術科を更にブラッシュアップしていきたいといった中で、新しい学びの分野、ジャンルとしてアニメーションというジャンルを加えていくというのが、大きな発想のもとにあります。そういうことであれば、もちろんアーティストですかそういった方面に進む生徒が出てくるというのが理想的だと思いますが、クリエイティブな分野というのは、能力に拠るところがあり非常に厳しい世界ですので、具体的な大学への進学であるとか、特定の地元の優良企業への就職であるとか、なかなかイメージとしては描きにくいかもしれません。ですが、考えているところは、現在の越生高校の取組を更に発展させ、その中に鳩山高校がこれまで取り組んでこられた、地域とのつながりであったり、鳩山高校としての様々な取組をうまい具合にそのレガシー、ノウハウを注入していくような、そういった統合をして新しい一つのものをつくり上げていくというところが、ポイントになるのだらうと思います。ですので、言ってみれば、今の越生高校と鳩山高校の良いところをブレンドしていくようなイメージになります。少なくとも、私たちはそう考えてきています。また、地域の皆さんにも、そのような趣旨で説明をさせていただいているところです。説明が少し抽象的かもしれませんが。そういった考え方を踏まえて、それぞれの学校から出された案をブレンドして、一つの文言、あるいはいくつかのフレーズにまとめていくということになります。それでは、ひとまずよろしいでしょうか。時間があれば戻ることもできるということで、次のパートについて、事務局から説明をお願いします。

事務局 (越生・鳩山新校基本計画骨子(案)のうち基本姿勢、教科指導について説明)

栗藤委員長 ただ今説明がありましたが、基本姿勢、教科指導の部分について、御意見、御質問がありましたら、お願いします。以前にも少し私の考えを皆さんにお示ししたことがあって、それぞれの学校の案というのは、とても内容が似ています。視点が同じようなところにあるということで、両校がそれぞれ同じような取組を進めてきた、その証ではないかと思っています。ですので、文言としては、事務局が技術的に一つにまとめさせていただいておりますが、恐らくここにあるそもそもの精神というものは、そんなにズレがないのだと思います。ですので、まとめ方のところで、こういう言葉の使い方はどうなのかとかそういった御意見をいただければと思います。事務局としてはこれをたたき台として、この後この文言をブラッシュアップしていきたいと思っておりますので、気づいたところで御意見をいただくと有り難いです。何かありますか。では、委員長からで申し訳ないのですが、教科指導の具現化のところで、エに「情報の適切な扱い方に関する学びの機会を設け、情報モラルや情報リテラシーの向上を図る。」とありますが、これは両校の案には見られなかったものかと思います。突然入ってきていますので、この部分について

説明をお願いします。

事務局 こちらは、準備委員会の方で委員から出た意見を参考に作成しております。昨今、ICTを活用するなどして、生徒が情報に触れる機会がかなり増えてきております。そういった中で、しっかり情報について適切な扱い方について学んでいくことが、非常に重要になってくるだろうと、それも情報の授業はもちろんですが、それ以外の授業でも当然ICTを活用してまいりますし、例えば、美術科の生徒にしても、著作権ですとかインターネットで出ている情報についての取扱い方ですとか、そういったところを今まで以上に学んでいく必要があるかと事務局で考えて、エを項目として設定させていただきました。

栗藤委員長 ということで、両校の案にはもともと無かったものですが、ここに入れてさせていただいております。その他、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、次のパートに進みたいと思います。事務局から説明をお願いします。

事務局 (越生・鳩山新校基本計画骨子(案)のうち生徒指導について説明)

栗藤委員長 それでは、生徒指導の項目について、御意見、御質問がございましたら、お願いします。四阿委員、お願いします。

四阿委員 事前に資料を拝見しまして、文言自体についての意見ではないのですが、この並びについて、基本的な生活習慣が一番目に来ているというところですが、これを考える上での論点のところ、生徒指導提要との関連とあったかと思えます。昨年の12月に改訂された生徒指導提要では、前回の生徒指導提要と比べて、発達支持的生徒指導という言葉が入ってきています。これは、以前から、生徒指導は狭い意味での生徒指導と広い意味での生徒指導がありますよと言われており、狭い意味での生徒指導は、不適応を起こしてしまっている生徒への個別の支援ですよ、広い意味での生徒指導は、全ての生徒を対象により良く導くことですよという説明でした。これが改訂によって二段階から三段階になって、生徒指導提要を御覧になっていただければ分かると思いますが、発達支持的生徒指導の部分が非常に幅広に書かれていて、全ての生徒を対象に、全ての教員が、その子の人としての発達を支持していく、支えていくということがまず基本にあって、その中で、不適応になってしまいかどうかどっちつかずになってしまっている子に予防的な指導をし、その上で、不適応状態になってしまっている生徒に対して個別具体の支援をするという三段階に分かれています。その観点から言うと、これはア、イ、ウの順番ではなく、ウ、ア、イの順番で文章が並んでいる方が理解しやすいと思われましたので、意見として述べさせていただきました。

栗藤委員長 ありがとうございます。事務局でも生徒指導提要は意識していたのですが、改めて、生徒指導課の方から、現行の考え方に寄るのであれば、順番を入れ替えた方が良くはないかという御意見でした。文言そのものを変えるというわけではないので、特に事務局としてこの順番にこだわっているものではないと思えますし、せっかく御指摘をいただいたので、国の生徒指導の考え方にマッチするのであれば、順番を入れ替えるこの形で修正したいと思えますが、よろしいでしょうか。はい。もしかするとその関連で、下の具現化についても順番を入れ替える必要があ

るかもしれませんが、これは今日ここで細かくやっても時間がかかってしまいますので、事務局の方で適宜対応させていただきます。この後の第3回の委員会では、整理したものを皆さんにお示ししたいと思います。ひとまず、順番を入れ替えるという点についてはこれでよろしいでしょうか。専門的に取り組んでいる職員からの意見ですので、私たちもそのとおりにいきたいと思っております。では、順番とかではなく、文言上、何か気になるところがありましたら、お願いします。よろしいでしょうか。それでは、次のパートに進みます。事務局から説明をお願いします。

事務局 （越生・鳩山新校基本計画骨子（案）のうち進路指導について説明）

栗藤委員長 こちらのパートについて、御意見、御質問がありましたらお願いします。

よろしいでしょうか。はい。それでは、次のパート、最後になりますが、生徒募集とその他について、事務局から説明をお願いします。

事務局 （越生・鳩山新校基本計画骨子（案）のうち生徒募集、その他について説明）

栗藤委員長 生徒募集とその他について、併せて説明がありました。御意見、御質問等がありましたらお願いします。はい。丹治委員、お願いします。

丹治委員 いまいち分かっていないところがあるのですが、その他について、越生高校案が校内環境の整備で、鳩山高校案が通級指導の継続とあるのに対し、骨子案には両校案とは関係ないことが書いてあるということで、この辺はどういった扱いになるのでしょうか。

栗藤委員長 その他についての御質問ということで、事務局からお願いします。

事務局 御質問ありがとうございます。まず記載しているアについては、先ほど事務局説明にもありましたとおり、教職員の資質・能力の向上を図る研修ということで、他の新校にも共通して記載している内容です。そして、越生高校案、鳩山高校案についても、事務局で記載するか検討したのですが、越生高校案にある校内環境の整備ですが、教育環境の整備については、基本計画の他の項目で触れるところがございます、ここではその他で記載することを避けております。また、鳩山高校案の通級指導の継続については、その他で書くには少し具体的な内容かということもありません、ここでは外してあります。

栗藤委員長 丹治委員、いかがでしょうか。

丹治委員 ありがとうございます。ということは、別のところで、これに関する方針とか具体的なものが出てくるということでよろしいでしょうか。

事務局 教育環境の整備についてですが、後ほど御覧いただければと思いますが、第1期児玉新校の基本計画の9という項目に、教育環境の整備というところがありまして、第3回のところで基本計画（案）をお示しますが、第1期に倣うのであれば、同様に9という項目で記載されるということになるかと思っております。

栗藤委員長 他にいかがでしょうか。事務局からお願いします。

事務局 もう一つの通級指導に関してですが、こちら、ここに記載すると、必ず実施するという方向になってしまいますので、今回のこの基本計画では、通級指導は全県的な施策でもあることから、記載は避けています。来年度以降の新校開設委員

会の中で、通級の方向性も話し合っ、必要なか必要ではないのかということも、話し合っ、いけるのかと思います。また、高校教育指導課が所掌しているところですので、全県的な施策であることから、今後調整していき、今回はここに書いてしまうと、必ず実施するということになってしまいますので、記載はいたしませんでした。御理解いただければと思います。

栗藤委員長 ということ、このパートに限りませんが、具現化については具体的なことを書くことにはなっておりますが、来年度立ち上がる新校開設委員会を縛ってしまうような具体的なことは余り記載しないようにと心掛けていますので、御理解いただければと思います。でないと、両校で新しいことをいろいろと考えようといったときに、あれもやらなければならない、これはやっ、はいけないということになってしまうと、なかなか動きが取りにくくなってしまいますので、そういった建付けにしているということは、御理解いただければと思います。他にいかがでしょうか。黒須教頭先生、お願いします。

黒須副委員長 先ほどの通級の件につきまして、書いた経緯を少し御説明いたします。こちらとしても、県の事業でもありますので、どうされるか分からないということ、で書いただけでして、継続してほしいとかそういった意志は持っていないということです。誤解していただきたくないのは、必ずやっ、ほしいとか、そういう意図があっ、書いたわけではなく、本校はいろいろな事業を引き受けているということもあるのですが、その継続性について、どういうふう、扱っ、いけば良いかということ、で書かせていただきました。そういうことで御承知おきいただければと思います。

栗藤委員長 はい。ありがとうございます。ここに書かれてい、いきさつ、事情を御説明いただきました。よろしいですね。それでは、一通り資料の確認を終え、たところ、時間も限られてはおりますが、これまでのところで、発言を逸してしまっ、ここを聞いておけば良かったということがあれば、全体を振り返っ、という時間、にしたいと思います。冒頭の学科名、募集学級規模については、議論を始めると少し長くなっ、ところもありますが、例えば、学科名については、こういう観点とか、こういうアイデアとか、建設的なものをお願いできますか。これだと分かりにくいか、これはやめた方が良いというのは、十分事務局としてはいただきましたので、こういうのを入れたらどうですかとか、この言葉はどうでしょうといったような、検討の具体的な材料となるものを出していただくと大変助かります。そこに限らず、全体を振り返りたいと思いますので、御意見がある方はお願いします。はい。榎本教頭先生、お願いします。

榎本副委員長 学科名に戻ります。準備委員会での伊東教授の意見がかなり反映されているか、と思います。思い切っ、アート・デザイン科というの、が良いのではないのでしょうか。意見です。

栗藤委員長 はい。ありがとうございます。今は、和語と英語、横文字がつながっ、いるのですが、いっ、そのこと横文字にしてしまおうという御意見でした。他にございますか。黒須教頭先生、お願いします。

黒須副委員長 案ではないのですが、クラス数、学級数を公表する際に、是非ですね、

比企郡の人口比を考えていただければと思います。鳩山高校と越生高校は近いのですが、通うとなると、鳩山町から一度高坂に出て、坂戸に出て、越生線に乗って、すごく時間がかかります。ですので、統合だから足し算という考えではなく、例えば東松山の北の方の子は、聞くと実はうちか吹上秋桜かということもあると聞いておりますので、是非、地域性のところを考えていただいて、2校の統合ではなく、比企郡の学校が一つ校舎を閉じるんだということで、検討される中でそういった要素もお考えいただきますと、大変こちらとしては助かるかなと思います。要望でございます。よろしくお願いいたします。

栗藤委員長 はい。事務局の方で、要望ということで受け止めていただければと思います。他にございますか。

佐藤委員 要望ということでよろしいでしょうか。

栗藤委員長 はい。どうぞ、お願いします。

佐藤委員 先ほどの話に戻ってしまうのですが、やはり私の考えとして、例えば人数であったり、最初に出てきた学科の名前とかですね、どういうところにこの学校が生徒を送り出したいのかということで決まってくるのではないかと思います。先ほど説明がありましたけれども、クリエイティブな分野で活躍している外部人材というのが、具体的にどういうものを指しているのかで、それが決まれば自動的に、ではそのためにこういった力を身に付けなければならないとか、こういう分野の力をたくさん身に付けなければならないということで、名前も決まってくるのではないかと思います。是非、次回そのクリエイティブな分野で活躍する人材をどうすることができたら我々は評価することができるのかということ、指標ですね、そこを明確に、具体的なものを出していただけると有り難いかと思います。

栗藤委員長 ありがとうございます。他、いかがでしょうか。はい。白井委員、お願いします。

白井委員 科としての意見ということでは申し上げられないので、最初の学科名に戻りますが、やはり私としては、美術科のままでお願いしたいと思います。アートという新しい言葉でも、美術・デザイン科でもなく、美術科ということで、その中で十分、これまでももしかしたら美術科ということで知られていなかった部分もあるかもしれませんが、アニメーションも学びたいなら学べるということが十分、伝わると思います。学びの内容については、学科名だけではなく、生徒募集活動の中などでお知らせしていくことができるのかなと思っています。もう一つなんです、学校のどんなイメージがあるのかということで、どういう生徒をというところで思うことがあります。今回、説明の中で、クリエイティブですとかアニメーションですとか、中学生の募集ということは分かるんですけども、鳩山高校もそうだと思いますが、越生高校は人数がそんなに多くない中で、倍率とかそういうところではない、先生たちが手厚く行ってきたことはあると思っています。目の前の生徒とすごく会話して、手厚く、恐らく中学校のときにいろいろと不遇な経験してきた生徒と面と向かって伝えてきたということがあると思います。ですので、これからも、鳩山高校と越生高校が統合しても、新校に来る生徒と先生が向き合って指導してい

るという、それで今まで自己肯定感をうまく持てなかった生徒も、3年間を通して何か自分に自信を付けて卒業していくというところが、少なくとも私は越生高校のイメージなのかなと思っています。私たちは、アーティストだとか作家を育ててきたわけではなくて、美術を通して何かできるという自信を付けて卒業してもらったのかなというイメージがあります。ですので、クリエイティブな分野で活躍してくればもちろん良いと思いますが、何か作品作りを通して得られる自己肯定感というのが、美術科の生徒でも、あと私は、普通科の芸術選択で美術を選択した生徒にもそういうふうに指導してきましたので、そういうことが、反映されると良いのかなと思います。

栗藤委員長 はい。学科名については、美術科という今の名称のままが良いのではないかという意見でした。それから、今後、この学校をどういうふうに、地域に、あるいは県民に伝えていくかというところでは、これまでの両校の取組をしっかりと考えるべきだという趣旨だったと思います。まさにこの二つの学校は、非常にこれまでの取組も似通っているところがありますし、多分、先生方も同じように、生徒たちを一人一人丁寧に見ながら指導してきた、そういったところに、ある意味強みがあるのだと思います。ですから、是非、その両方の強みを生かした形での新しい学校づくりができると良いと思っています。御意見、ありがとうございます。それでは、時間となりました。よろしいでしょうか。それでは、以上で協議を終了したいと思います。